**幼児礼拝12月①**

**イエス様の教え(1) 放蕩息子（イエス様②）**

今日は、イエス様がされた「放蕩息子」というお話をしたいと思います。

イエス様は、さまざまなお話しをされました。お話を通して、私たちに神様の心を紹介しようとされたのです。今日は、イエス様のたくさんあるお話の中から、「放蕩息子」についてお話をしたいと思います。

あるところに、二人の息子をもつお父さんがいました。あるとき、弟が、お父さんに「私はおとなになりました。私の分の財産を下さい」と、言いました。お父さんは、弟に財産を分けてあげました。

すると、弟は、もらった財産を全部持って、家を出ていってしまいました。そして、美味しい食べ物をたくさん食べて、宝石や立派な洋服もたくさん買って、仲のいい友だちといつも遊んでばかりいました。もちろん、仕事なんかしていません。お父さんからもらった、お金はみるみる減っていき、あっという間に、全部なくなってしまいました。

お金も、食べる物も、着る物もなくなってしまうと、いままで、いっしょに遊んでいた友だちも離れていってしまいました。

全てを失った弟は、身も心もボロボロになりました。食べるものもありません。おなかもとっても空いています。やっとのことで、ある農家にお願いをして、豚のお世話をする仕事を始めました。それでも、貧しい生活は続きます。あまりにもお腹がすいた弟は、豚の世話をしながらも、豚の餌を食べたいとまで思うくらいでした。

全てを失った弟は、心の底から今までの自分のやってきたことを、反省しました。

「自分はなんて愚かなことをしてしまったのか。お父さんからもらったお金を全部使ってしまった。お父さんに申し訳ない。お父さんに今までのことを謝ろう。」

弟は、家に戻ること決心しました。

ところで、お父さんはどうだったのでしょうか？家を飛び出した、弟に対して「なんて親不孝なむすこなんだ」と恨んでいたのでしょうか？

そんなことはありませんでした。ずっと、ずっと、愛する息子が家に帰ってくることを神様にお祈りをして待っていたのです。そしてぼろぼろになった、弟が家の近くにくるやいなや、お父さんは、その弟を抱きしめたのです。

弟は、

「わたしは、神様とお父さんに対して罪を犯しました。もう、息子と呼ばれる資格はありません」と、言いました。

お父さんは、そんな弟に対して、決して怒りませんでした。

ただただ、優しく抱きしめ続けました。そして、僕たちに命じました。

「一番良い服を持ってきなさい。そして、おいしい食事をたくさん準備しなさい。死んだと思ったわたしの息子が帰ってきたんだ」

この、お父さんの心こそが、神様の心です。イエス様は、このたとえ話を通して、私たちに神様の愛を教えて下さったのです。

私たちが、どんなに神様のことを忘れても、神様は決して私たちのことを忘れません。

そして、私たちが、神様の下に帰りたいと願えば、神様はいつでも、心から私たちを迎えてくれるのです。